

問1：

【書類名】 特許請求の範囲

【請求項1】

一つの椅子用背もたれ、椅子用フレーム及び椅子用シートを含む冬夏多用途型多機能椅子であって、

上記椅子用シートは、少なくとも一つのひっくり返し可能なシートプレートからなり、
上記シートプレートは、少なくとも三つのプレート面を含み、上記各々のプレート面には、季節毎に使用され、またはマッサージ保健用のシートクッション層が固定されていることを特徴とする冬夏多用途型多機能椅子。

【請求項2】

上記ひっくり返し可能なシートプレートの間部には、回転軸が設置され、上記回転軸の一方側には、回転軸を回転駆動するための駆動機構が設置される請求項1に記載の冬夏多用途型多機能椅子。

【請求項3】

上記駆動機構は、回転軸の一方側に被せて設置される歯車であり、複数のシートプレートがある場合には、隣接するシートプレートの歯車はお互いに噛み合うことで、同期的なひっくり返しが行われる請求項2に記載の冬夏多用途型多機能椅子。

問2：

【技術分野】

[0001] 本発明は、食品安全分野において多環芳香族炭化水素(PAHs)を分析する前処理方法に関しており、特にフライ食品における多環芳香族炭化水素を検出する方法に関する。

【背景技術】

[0002] 従来より、フライ食品及びフライ油の品質及び安全問題が注目されている。多環芳香族炭化水素(Polycyclic aromatic hydrocarbons, PAHsと略称)は、二つか二つ以上のベンゼン環が線状、角形またはクラスター状で配列された化合物で、食品と環境に広く存在する残留型有機汚染物質であり、その最も顕著な特性は発癌性である。多くの国や国際機関は、すでにPAHsを食品中の有害物質検出用の重要な指標の1つと指定されている。既存の研究では、揚げパンにPAHsが含まれていることが示されているが、この代表的な中華フライ小麦粉食品におけるPAHsに対して信頼性のある検出方法がない。現在、国内外がフライ食品中のPAHsへの検出の研究が数多く行われたが、前処理工程は非常に複雑で多くの有機試薬が必要である。

問3：

【発明を実施するための形態】

[0012] 図1に示すように、本発明に記載の遮断スイッチ及び/又は接地スイッチのON/OFF状態監視システムは、スイッチケース21に設けられたカメラ22を備え、上記カメラ22は、ネットワーク伝送装置（ネットワーク伝送装置とは、インテリジェントビデオエンコーダと交換器を指すものである。まずカメラはアナログ信号線によりインテリジェントビデオエンコーダに接続され、アナログ信号をデジタル信号に変換してから、インテリジェントビデオエンコーダはそのネットワークポートを介して交換器に接続され、交換器はローカルエリアネットワークを通じてネットワークの伝送が実現される）と接続され、画像をビデオ分析制御センター（コンピューターからなる）へ伝送することができ、上記スイッチケース21には4台のカメラ22（本発明に記載のナイフスイッチ接点は4組あるため、カメラの数を4台にしてよい。もちろんそれより多くの数にすることもできる）が設けられ、上記カメラ22は、ナイフスイッチ25の接点に対応する位置にそれぞれ設けられている。